

# 一般質問

6月定例会では6月19日と20日の2日間、11名の議員が市政に関する様々な質問を展開しました。

## 一般質問 松本 雅徳 (蘇政会)

### 中南和地域の拠点都市檀原のまちづくり

**問** 「檀原市人口ビジョン」

をもとに、これから取り組む基本的方向や具体的な施策を取りまとめた「檀原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、安心して便利に暮らせるまちづくりについて、以前、一般質問したが、国土交通省は、本格的な人口減少社会の到来、巨大災害の切迫等に対する危機意識を共有し、2050年を見据え、未来を切り開いていくための国土理

活力の維持や生活機能を確保し、高齢者も安心して暮らせるよう公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを推奨している。持続可能な地方都市として、どのような方向で進んでいるのか。

**答** 集約化(コンパクト化)

だけでは、圏域やマーケットが縮小するだけで、より高次な都市機能サービスを成立させるために必要な人口規模を確保できない。各地域をネットワーク化することが重要であり、圏域人口の確保、各種都市機能サービス維持にも取り組む必要がある。コンパクト・プラス・ネットワークにより、人・モノ・情報の交流・出会いなどが活性化し、高密度な交流を実現することが期待され、新たな価値創造につながり、賑わいを創出することにもつながることから、多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくりを進めること

が有効な手法だと考える。

**問** 人口を維持するために、本市の恵まれた道路・鉄道交通の環境を有している特徴を生かした低・未利用地の活用を図ることを強く感じており、市街化調整区域は、地区計画の策定がされ、その制度活用により、商業系や住宅系の土地利用が見込まれている。コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりとは、具体的にどんな施策として推進していくのか。また、コンパクト化の手法、規制、エリアはどのように捉えているのか。

**答** 今後、既存のストックを生かした低・未利用地の土地利用を促進し、マーケットの拡大や人口維持を図ることが重要であると考え。また、地区計画制度の活用は、秩序ある土地利用の規制・誘導を図るため、市街化調整区域で地区計画を策定する場合の指針となるガイドライン案を現在作成している。居住・就労・教育・医療などを含めた都市活動全般にわたり、コンパクト・プラス・ネットワーク化された総合的なまちづくりを実現する方向で、その対象エリアは、幹線道路沿道、鉄道

駅周辺などに限定した基準として検討を加えている。むやみに市街地を拡大するのではなく、その地区の特性、必要性、周辺の公共施設の整備状況等さまざまな観点から、地域の活性化に寄与するものと認められる場合に限り、都市計画法による地区計画制度の活用を図りたいと考える。

### 檀原市歌「虹染めて」

**問** 平成29年9月議会での答弁後、幅広く活用する方向で検討すると答えをもらったが

それ以降、具体的にどのような進めているのか。

**答** 観光交流センター(ナビプラザ)で、毎日正午に流し

ており、本庁舎や新分庁舎「ミグランス」での具体的な活用の検討を進めている。また、庁内電話や各公共施設の保留音にできないかなど引き続き検討している。教育現場では、小学校16校中5校、中学校6校中2校で活用している。小学校では、音楽の授業で取り上げ、学習素材として活用している。また、給食の時間や

運動会等の開始前にBGMとしても活用。中学校では、吹奏楽部が、卒業式や入学式の際に来賓入場のBGMとして演奏している。今後は、中央公民館や体育館など指定管理者等とも協議しながら、利用に支障が出ない範囲で積極的な活用の検討を進める。



市歌「虹染めて」

**問** ごみ収集車が市内を走り、作業中に「赤とんぼ」のメロディーが流れており、そのメロディーとごみ収集車の関連性がかかり浸透していると思うが、メロディーを檀原市歌に変えることができるか。

**答** ごみ収集作業時に檀原市歌を流すことで、市民の皆様

が市歌を知り、愛着を持ってもらうことはとても良いと考え、現在定着している「赤とんぼ」を変更するには、周知と啓発が必要であり、関係機関と協議した上で、市民の皆様が理解してもらえよう